

地球温暖化対策 -脱炭素社会の実現に向けて- Vol.22

庁舎駐車場に木製ガードレールを取り付けました

阿蘇の山にはスギの大径木が多く眠っています。スギの大径木は、幹に大気中の二酸化炭素に由来する炭素をたくさん蓄えています。成長しすぎたスギ大径木は、建築用材としての需要は小さく、新しく炭素を蓄える能力も衰えて

います。九州大学景観研究室は、このようなスギ大径木を活用して、木製ガードレール(デカスギガードレール)を開発しました。木製ガードレールは、現在、役場の西側駐車場に取り付けられています。

木製ガードレールが普及するようになれば、次の効果が期待できます。

- 鉄鋼業界は国内の産業で最も多くの二酸化炭素を排出していますが、鉄製ガードレールの代わりに木製ガードレールを取り付ければ、二酸化炭素削減につながり、また、炭素を蓄える能力が衰えた大径木を伐採し、跡地に植林を行えば、二酸化炭素吸収源となります。
- 白い金属製ガードレールが木製ガードレールに置き換えれば、国立公園または世界文化遺産登録候補地である阿蘇にふさわしい景観形成が期待できます。
- スギは樹齢約30年から花粉を飛ばすようになりますので、スギ大径木の伐採は、花粉症対策になります。
- 阿蘇の林業および製材業の活性化、関係する雇用の促進が期待できます。

これらの他に、二次的な効果として、木製ガードレールにより優れた景観が形成されることにより、観光業に大きなプラスになること、林業活性化により人工林の適正な管理につながることで、SDGs未来都市にふさわしく、地域の資源の有効活用による資源および経済の循環型社会が形成されることが期待できます。

木製ガードレールが阿蘇地域内の多くの公道に取り付けられるようになるためには、量産す

るための合理的な手法を検討し、伐出から製品化までのトータルシステムを構築する必要があります。また、国の規定する衝突試験を受けるための資金を確保する必要があります。

木製ガードレールの普及のためには難しい課題がありますが、まずはこの取組みに賛同していただける人を増やし、気運醸成を図る必要がありますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



庁舎駐車場に取り付けられた木製ガードレール
防腐処理に異なる防腐剤を使用しているため、それぞれ色が異なります。防腐処理を施した木材は耐火性を発揮し、野焼きの炎の影響を受けにくくなります。